

## 中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター  
TEL0852-36-8608  
江の川改修発掘調査事務所  
TEL0855-52-7195

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです

### 第2回現地説明会を開催しました！



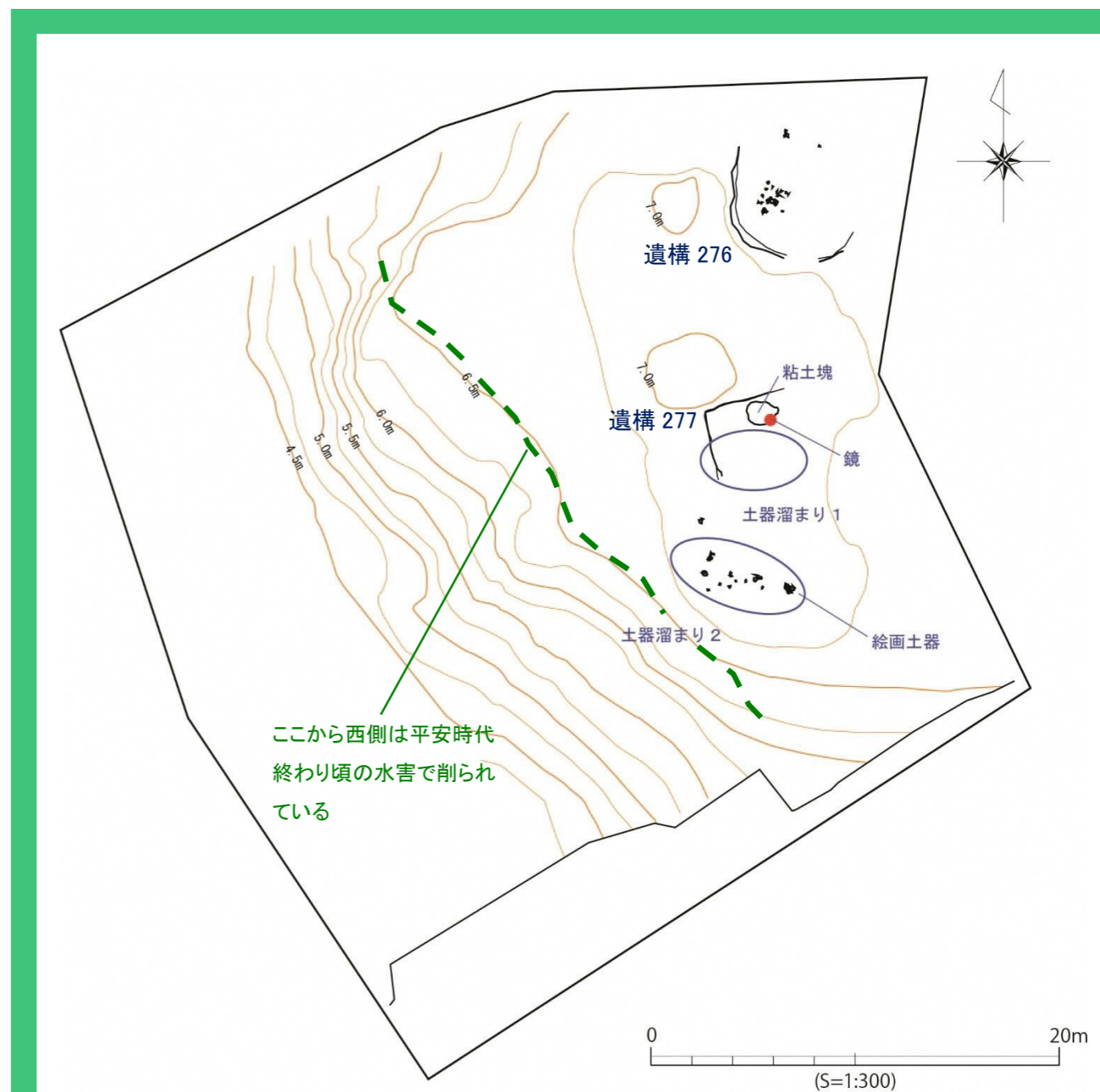
6月から開始した江の川河川改修事業にともなう発掘調査も約7ヶ月が経ち、ついに最終盤を迎えました。1月26日(日)には調査の成果をご覧いただくため現地説明会を開催しました。天候にも恵まれ、多くの方に足を運んでいただき感謝申し上げます。本号でも改めて発掘調査の成果をご紹介します。

#### もりばらしものほら 森原下ノ原遺跡(江津市松川町八神)

森原下ノ原遺跡は、江津市松川八神の標高約8mの河岸段丘上に位置しています。発掘調査によって標高4~7mの自然堤防上で、縄文時代中期前半(約5,500年前)から江戸時代前期(17世紀)にかけての遺構約350基・遺物約120箱を発見しました。遺構では、古墳時代の段状遺構、室町時代の鍛冶工房跡や江戸時代の畑跡などが見つかっています。遺物の中には山陽地方や九州地方、さらに遠くの朝鮮半島や中国に關係する貴重な品が含まれています。その中でも、今回の現地説明会では古墳時代前期から中期の土器集中地点の周辺で出土した絵画土器や青銅鏡片について詳しく紹介しました。



現地説明会の様子



古墳時代の遺構全体図

#### 発見の意義

- わずか 1,400m<sup>2</sup> の調査範囲から 5,000 年以上にも渡る、多様な遺構・遺物が発見され、江の川沿岸に暮らす人々の生活の変遷が明らかとなりました。
- 絵画土器や青銅鏡片からは本遺跡が祭祀を行う重要な場所であったことが分かりました。
- 弥生時代の層からは磨製石斧(ませいせきふ)の未成品や石の小破片が大量に出土し、この場所で石器製作を行っていた可能性が考えられました。
- 今回大量の遺物が出土したことによって付近に集落が存在する可能性が高まり、今後の調査に期待ができます。

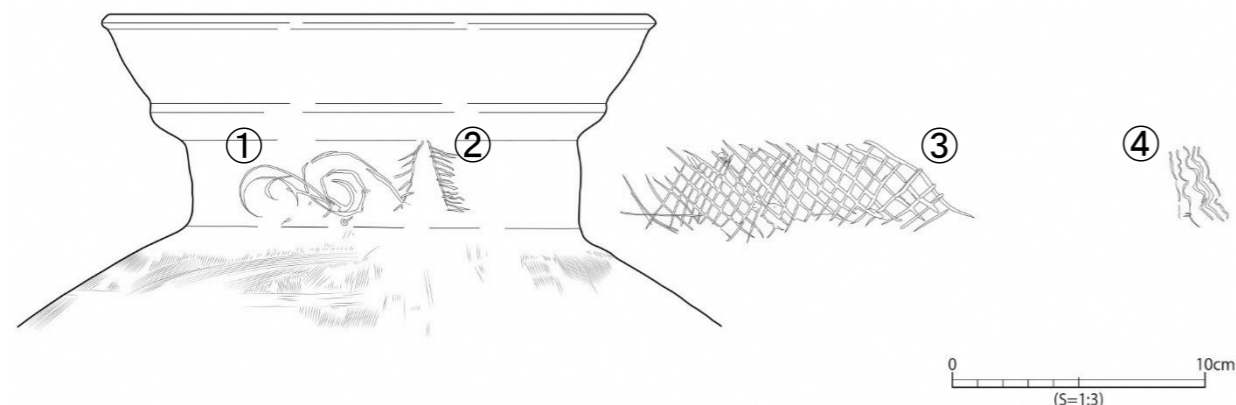


### 古墳時代の絵画土器を発見！



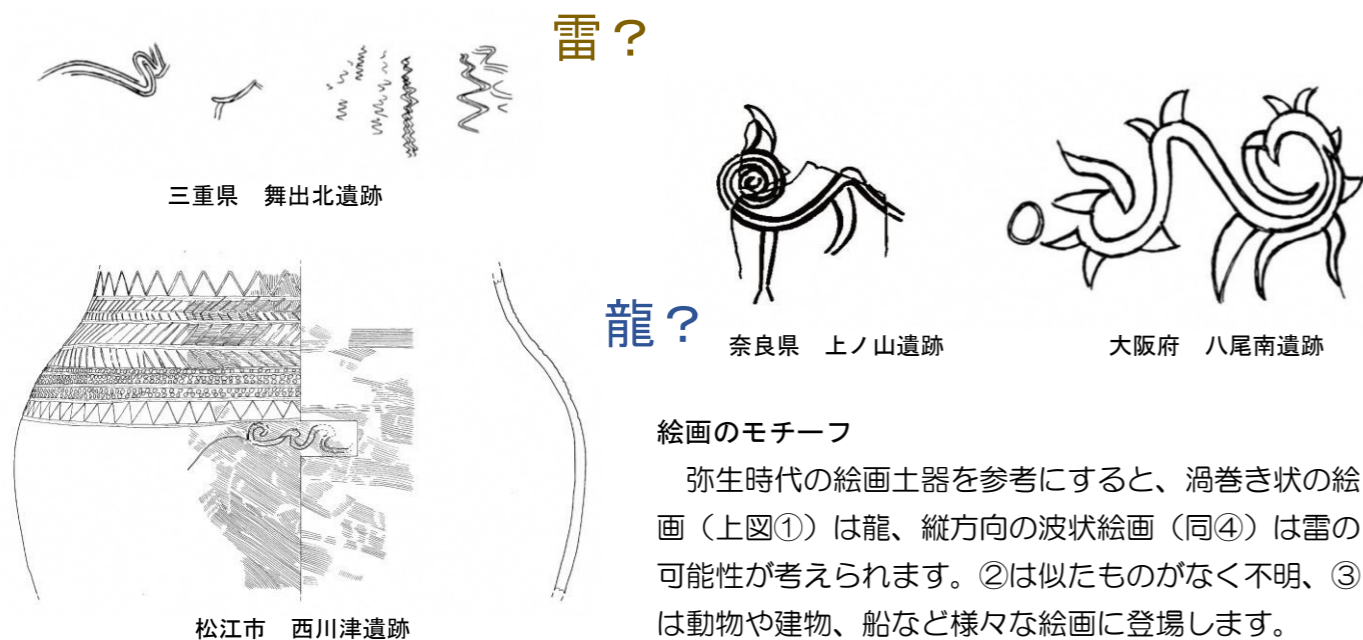
絵画土器（壺）の出土状況

古墳時代前期から中期（4～5世紀）の土器がまとまって出土した中で絵画土器が見つかりました。近くで同じ土器の胴部の破片や人頭大の石も出土しています。



絵画土器（壺）の実測図

古墳時代前期後半（4世紀後半）に製作された壺形土器で、頸部を一周するように3ヶ所に絵画がみられます。絵画土器は主に弥生時代中期後半から後期（紀元前1世紀から紀元後3世紀）に流行し、古墳時代の初めには衰退します。森原下ノ原遺跡のように、古墳時代前期後半の絵画土器は非常に珍しく、この地に暮らしていた人たちがどのような文化をもっていたのかを考える手がかりとなります。



絵画のモチーフ

弥生時代の絵画土器を参考にすると、渦巻き状の絵画（上図①）は龍、縦方向の波状絵画（同④）は雷の可能性が考えられます。②は似たものがなく不明、③は動物や建物、船など様々な絵画に登場します。

### 後漢（中国）でつくられた青銅鏡を発見！

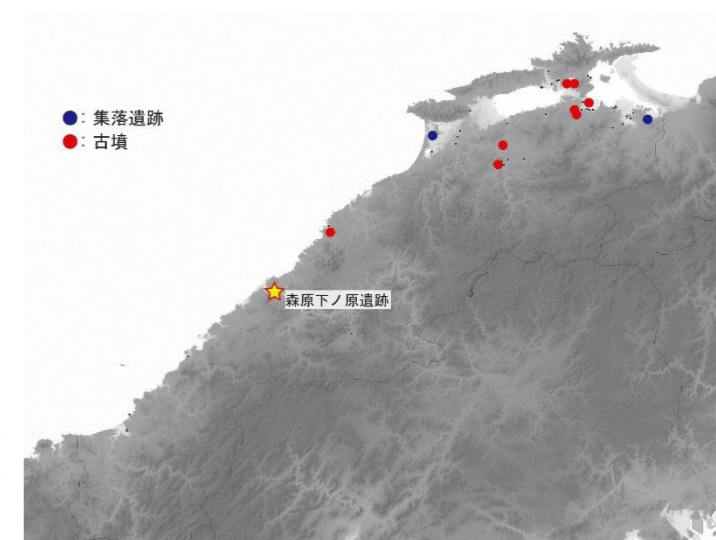


出土した青銅鏡

直径約12cmに復原できる青銅鏡の破片です。鋸の歯のような文様や厚さから2世紀前半に後漢（中国）で製作され、日本にもたらされたものです。遺構としては確認できていませんが、何らかの祭祀に使用し、廃棄されたものと考えられます。

島根県内の漢鏡分布図

島根県内で漢鏡が見つかったのは今回で11例目です。これまで分布がなかった地域での発見となり、この地域の人々が遠く離れた地域と交易を行うことによって貴重な品を手に入れることができる環境にあったことが新たに分かりました。



(松山智弘 2009「島根県の鏡」『山陰の古墳出土鏡』を改変)

### 弥生時代に石器を作っていた？



弥生時代前期の遺物出土状況

弥生時代前期の土器とともに製作途中の石斧や石を割った際の小破片が大量に出土しました。一方で、完成品はほとんど見つからないため、加工場のような場所だったのかもしれませんが。

### お知らせ

#### 今後調査成果を整理していきます！

今回の発掘調査では縄文時代から江戸時代までの大量の遺物が出土しており、今後の整理によってさらに新たな発見があるかもしれません。森原下ノ原遺跡の整理を進めることにより、これまで調査が少なかった江の川下流域の歴史を知るための大きな手がかりとなると考えられます。

#### お楽しみに！

